

食品ロスに関するアンケート調査

1 調査目的

日本では現在、年間 600 万トン以上の食品ロス（まだ食べることができるのに捨てられてしまう食品）が発生しており、一人あたり毎日お茶碗 1 杯分を捨てている計算になります。食料の 60%以上を輸入に頼っているわが国のこのような現状は国際的に見ても問題であり、早急に解決しなければなりません。

市民の皆様の食品ロスに対するご意見や現状を伺い、食品ロスの削減に向けた取組をより一層進めていくため、市政アンケートモニター調査を実施しました。

2 調査対象

市政アンケートモニターとして委嘱した市内在住の男女150人

3 回収件数

148件（回収率 約99%）

4 調査方法

インターネットによるアンケート調査

5 調査期間

令和2年5月21日（木）～令和2年5月28日（木）

6 担当課

ごみ減量推進課

7 回答者の属性

（1）年代・性別

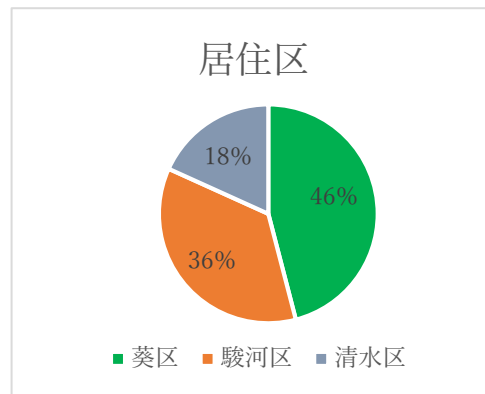
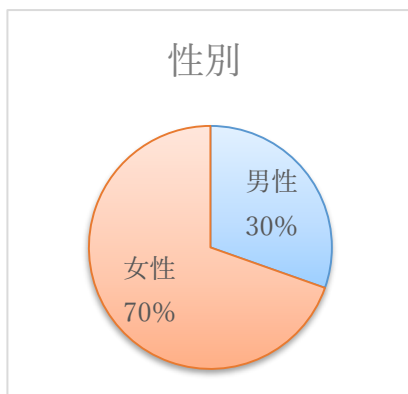
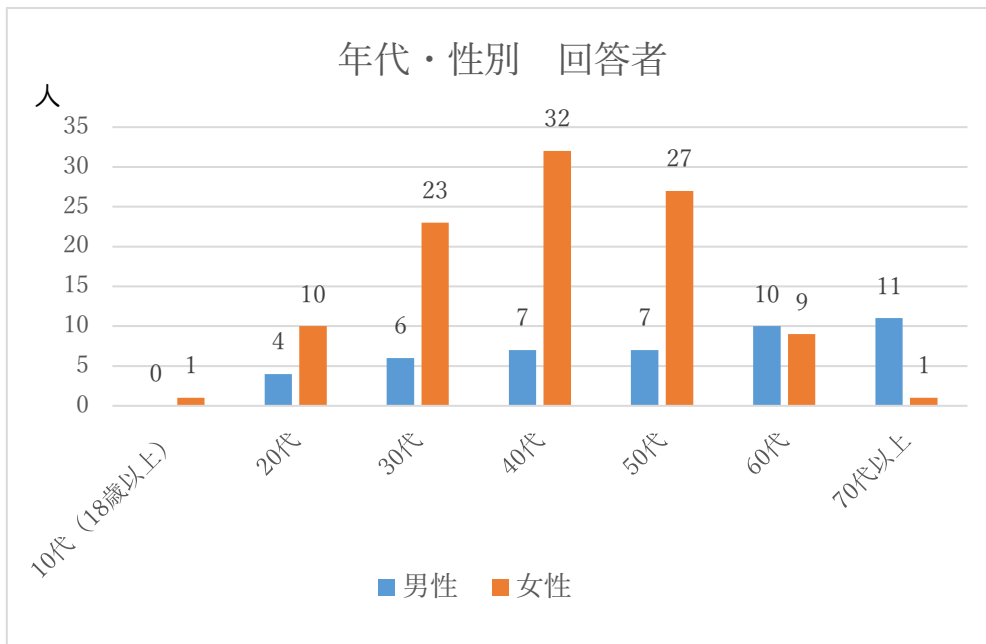
（人）

	男性	女性	計
10代（18歳以上）	0	1	1
20代	4	10	14
30代	6	23	29
40代	7	32	39
50代	7	27	34
60代	10	9	19
70代以上	11	1	12
総計	45	103	148

（2）居住区

（人）

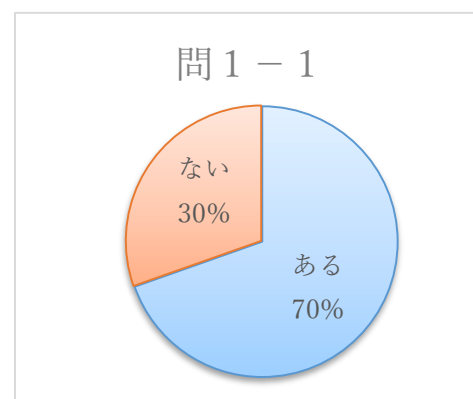
	葵区	駿河区	清水区
居住区	68	53	27



8 調査結果・概要

問1-1 あなたは普段の生活でまだ食べることができる食品を捨ててしまうことがありますか。

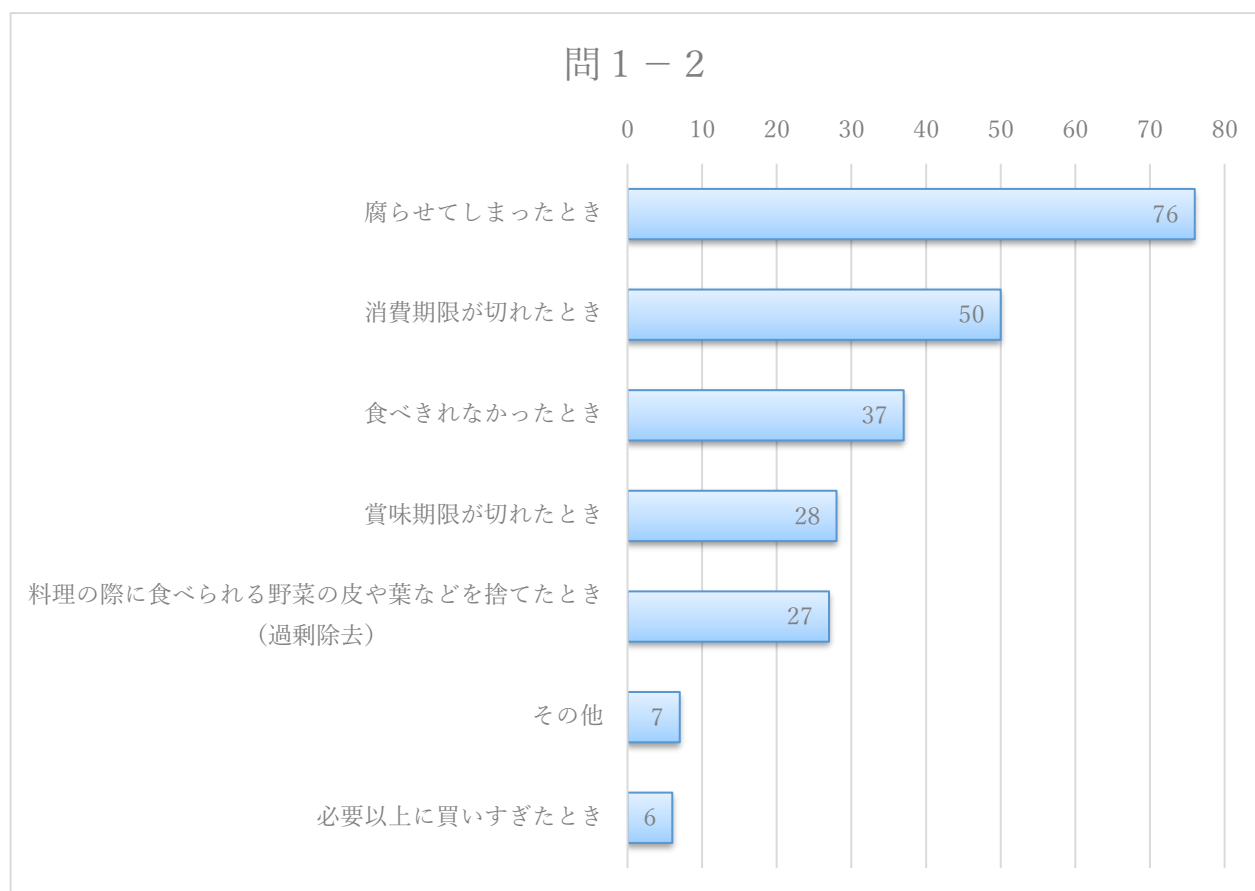
	ある	ない
問1-1(人)	103	45



問1-2 「ある」と回答した方にお伺いします。それはどんなときですか。(選択は3つまで)

腐らせてしまったときが76人と最も多かった。期限に関しては、賞味期限が切れたら捨てる人が28人だったのに対し、消費期限が切れたら捨てる人は50人であった。食べきれずに捨ててしまうことがある人も37人と比較的多かった。

	腐らせてしまったとき	消費期限が切れたとき	食べきれなかったとき	賞味期限が切れたとき	料理の際に食べられる野菜の皮や葉などを捨てたとき(過剰除去)	その他	必要以上に買いすぎたとき
問1-2	76	50	37	28	27	7	6



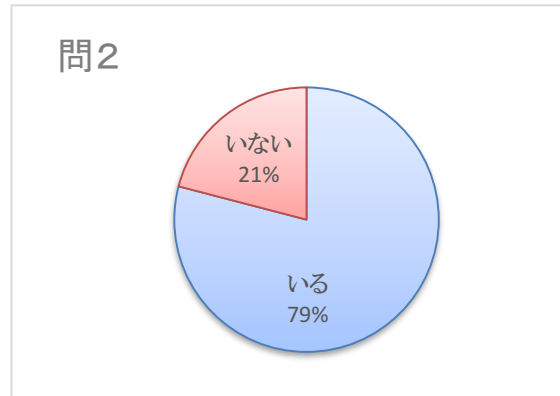
<その他の意見>

- ・白菜やキャベツなどの葉物野菜は、野菜室のなかで外葉や切り口が傷んで切除することがあるが、これらは、生ゴミとして廃棄せずに庭の土の中に埋めている。(70代以上男性)
- ・子どもの食べ残し。(20代女性)
- ・農家の友人に柑橘類やお茶をもらう機会が多く、なるべく近所に配るようになっているが、どうしても間に合わず廃棄が出てしまう。また、作った惣菜を冷凍庫に入れたまま食べるのを忘れてしまうことがある。(40代女性)

- 自分で買ったものではなく、人からいただいた食品が、自分と家族の好みに合わなかったとき。
(30代女性)
- 子供が残した時。子供向けの味付けや食感にしているため、捨ててしまう。(30代女性)
- 市販のお惣菜などがとてもまずかったことがあり、仕方なく廃棄してしまった。(40代女性)

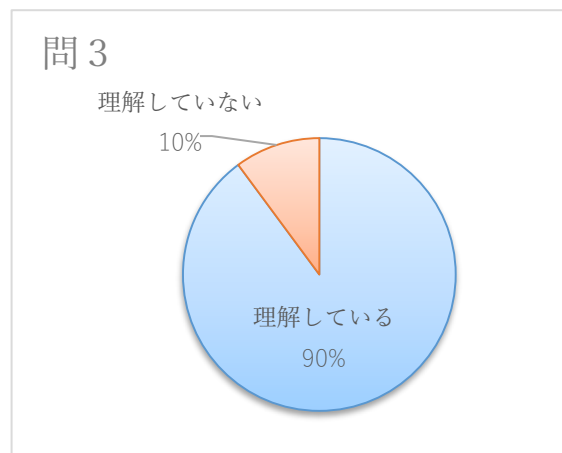
問2 食品ロスの中には、全く手を付けることなく捨てられる「手つかず食品」が多く含まれています。手つかず食品が捨てられる要因として、冷蔵庫に入れたまま賞味期限や消費期限が過ぎてしまった、ということが考えられます。あなたの家庭内で、冷蔵庫内を定期的にチェックや整理している人がいますか。

	いる	いない
問2(人)	117	31



問3 「賞味期限」とは美味しく食べられる期限、「消費期限」とは安全に食べられる期限のことをいいます。賞味期限・消費期限を正しく理解していますか。

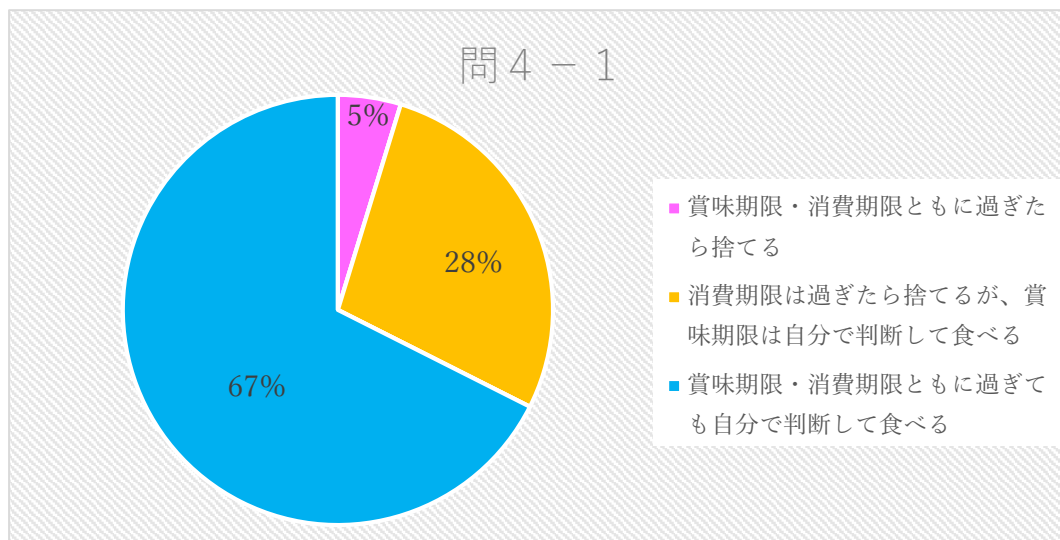
	理解している	理解していない
問3(人)	133	15



問4-1 賞味期限・消費期限が過ぎたら捨ててしまいますか。それとも自分で判断して問題なければ食べるようにしていますか。(選択は一つ)

67%の人は期限切れに関係なく自分で判断して食べる、と回答しており、賞味期限切れになったら捨てるという人はわずか5%であった。

	賞味期限・消費期限ともに 過ぎたら捨てる	消費期限は過ぎたら捨てるが、 賞味期限は自分で判断して食べる	賞味期限・消費期限ともに 過ぎても自分で判断して食べる
問4-1(人)	7	41	100

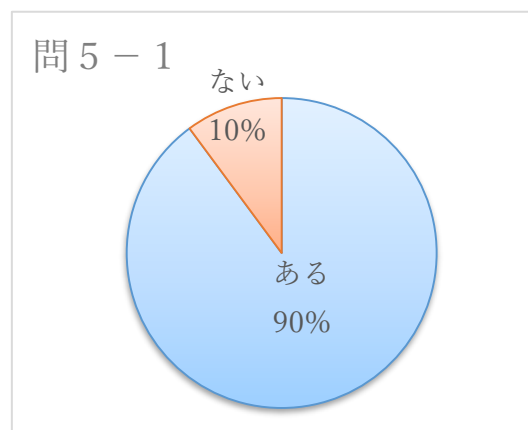


問4-2 賞味期限が過ぎたら捨ててしまう理由（なんとなく嫌だから、などでも可）があればご回答ください（自由回答）。

- ・調味料ならそのまま使うが、生物であれば捨ててしまう。（40代男性）
- ・日付が切れたものを食べるのが嫌なので、すべての食品に日付をつけて、必ず使い切っている。（50代女性）
- ・食中毒に気を付ける事と、食べる気がしないため。（60代男性）
- ・食べられそうでも、なんとなく気持ち悪い。（70代以上男性）
- ・賞味期限であっても保管が悪い等で変わるので、食すことは敬遠する。（70代男性）
- ・食べて体調が悪くなったら困るから。（30代女性）

問5-1 スーパーなどで、賞味期限・消費期限が長いもの（奥に並べてあるもの）を優先して買うことがありますか。

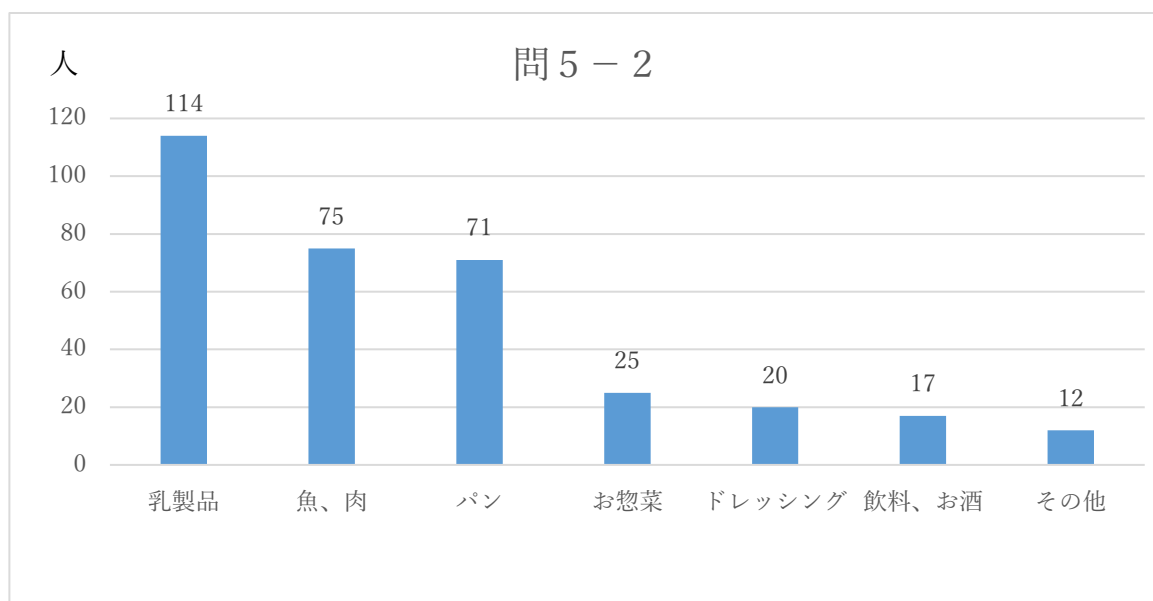
	ある	ない
問5-1(人)	133	15



問5-2 「ある」と回答した方にお伺いします。それはどんな食品が多いですか。（選択は2つまで）

乳製品が最も多く、114人であった。次いで魚・肉、パンの順で多かった。その他の意見では、豆腐、卵、缶詰、お菓子があつた。

	乳製品	飲料、お酒	魚、肉	パン	お惣菜	ドレッシング	その他
問5-2 (人)	114	17	75	71	25	20	12



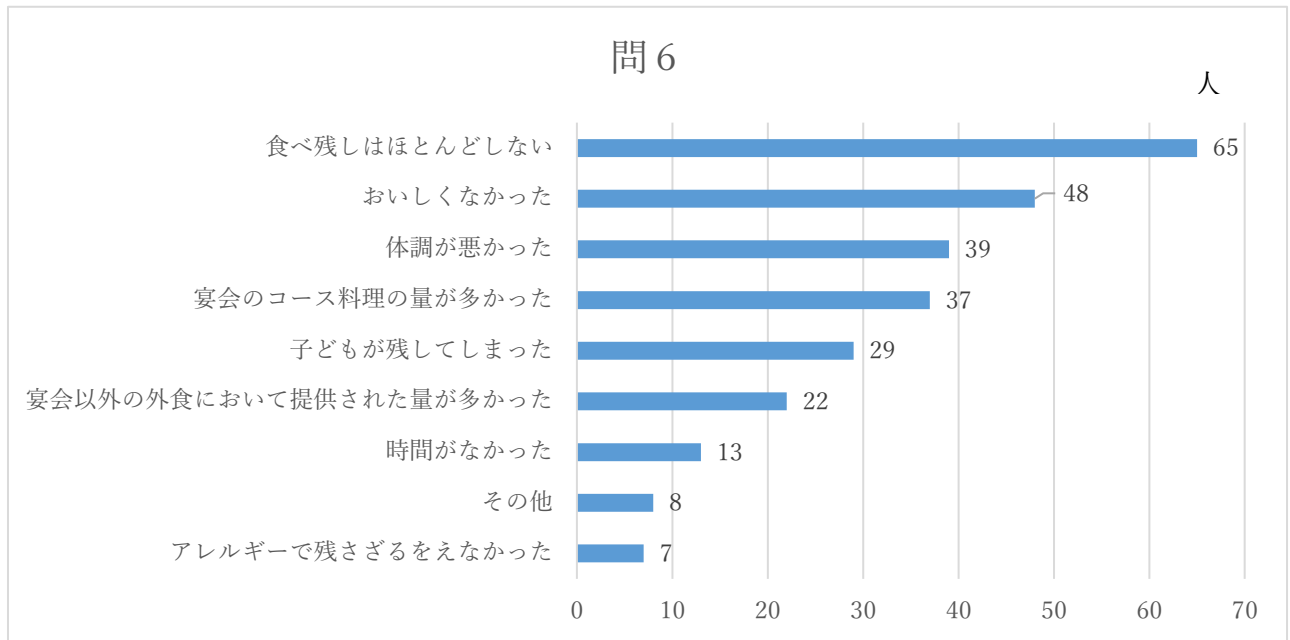
<その他の意見>

- ・買い物に行く頻度を減らそうと思うときには、豆腐は賞味期限を見るときがある。（70代以上男性）
- ・すべての商品について新しいものを購入するようにしている。賞味期限が短いものは、値引きされている場合は購入している。（50代女性）
- ・豆腐（60代女性、70代以上男性）
- ・卵（30代、40代、50代女性、30代男性）
- ・缶詰：期限切れ近くの安売り商品は、意図的に買う。（70代以上男性）
- ・お菓子類（70代以上男性）

問6 普段の生活の中で食事を残してしまうのはどんなときですか。（選択は3つまで）

「食べ残しはほとんどしない」という人が65人と多かったが、食べ残しをしてしまう人の理由として多かったのは「おいしくなかった」、「体調が悪かった」、「宴会コース料理の量が多かった」などであった。

	食べ残しはほとんどしない	おいしくなかった	体調が悪かった	宴会のコース料理の量が多かった	子どもが残してしまった	宴会以外の外食において提供された量が多かった	時間がなかった	その他	アレルギーで残さざるを得なかった
問6(人)	65	48	39	37	29	22	13	8	7

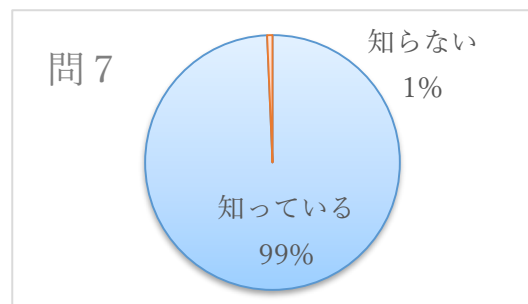


<その他意見>

- ・宴会や家族で外食する時に余った料理がある場合は、店員に持ち帰りたい旨を伝え、許可があれば持ち帰ることを習慣にしている。(70代以上男性)
- ・食べられないもの、嫌いなものがあったとき。(20代男性、50代女性)
- ・沢山作りすぎてしまったとき。(40代女性、20代女性)
- ・食べ残しはしない。食べ残しは後で食べている。(70代以上男性)
- ・食事前に間食したため、あまり食べられなかったとき。(60代女性)
- ・外食で油分が過剰に多い料理の場合。(50代女性)

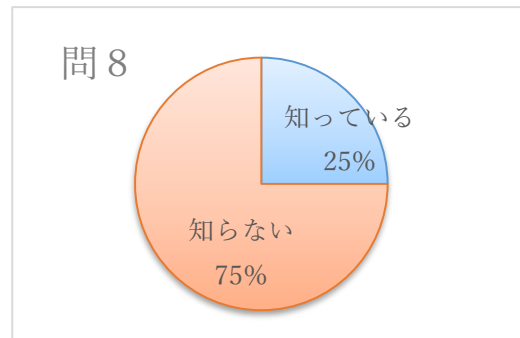
問7 食品ロスという言葉を知っていますか。

	知っている	知らない
問7(人)	147	1



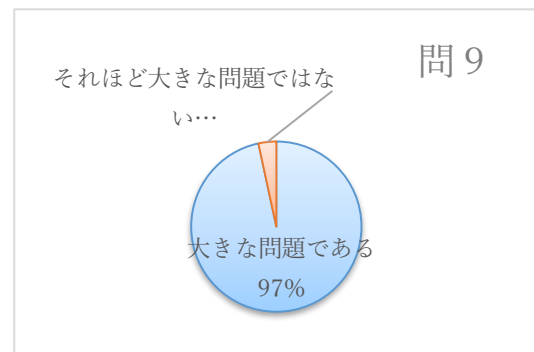
問8 行政・企業・消費者など様々な主体が連携し食品ロスを推進するための、「食品ロス削減に関する推進法」、いわゆる食品ロス削減推進法が令和元年10月に施行されたことを知っていますか。

	知っている	知らない
問8(人)	37	111



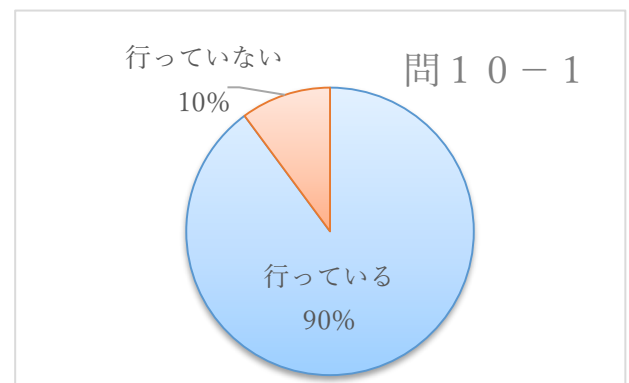
問9 食品ロスが社会的に大きな問題だと考えますか。

	大きな問題である	それほど大きな問題ではない
問9(人)	143	5



問10-1 食品ロス削減のための取り組みを普段から意識的に行っていますか。

	行っている	行っていない
問10-1(人)	133	15



問10-2 「行っていない」と回答した方にお伺いします。食品ロス削減のための取り組みが普段の生活の中で行えていない要因があればお書きください。(自由回答)

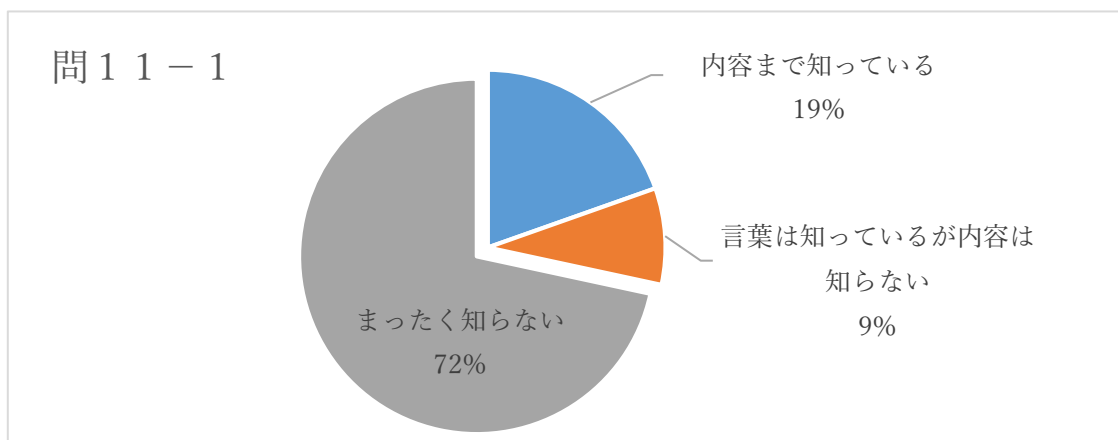
- 子供の食べ残しをどうするのか、風邪などの感染も考え、いつも悩んでしまう。(30代女性)
- それほど食品ロスに興味がなかった。(30代女性)
- もったいない精神で買った物は捨てずに食べ切るようにしているので、特に食品ロス削減のための取り組みを意識していない。(40代男性)

- 大きな問題という意識がない。(20代女性)
- 消費、賞味期限がほとんどの製品に表示されているのは良いが、期限表示が必要ないと思われる商品でも、法律上制約を受け、やむを得なく表示しているような製品がある。本当の意味で消費期限、賞味期限の表示が必要なのか見直すべきだと思う。品物によっては、製造年月日が表示されていれば事足りるものもある。(70代以上男性)
- 出された料理はすべて食べているので、取り組みを行っているつもりはなかった。(20代男性)
- 食品ロスとしての取り組みを意識的に行っていないわけではないが、食べ物が無駄にならないように日ごろから行動している。(60代男性)
- 食品を無駄に購入することが結果として経済を回している。(50代男性)
- なるべく食品は食べきるよう心掛けてはいるが、残った場合の再利用方法に関してあまり知識を持っていない。(40代女性)
- 残さないようにしているが、それは当たり前のような気がするし、他にどのように取り組んだらいいのかわからない。(30代女性)
- すぐ使う予定がない食品でも、安くなっていると買ってしまう。(20代女性)
- 量的な買いすぎをしないように留意する。(70代以上男性)
- 家族それぞれが意識をしていないと思う。神経質な家族が多く、「お腹を壊してしまう」というような不安がよぎる。(30代女性)

問11-1 宴会で「最初の30分と最後の10分は、歓談よりも食事を楽しみ、食べ残しを減らしましょう」という運動のことを、「30・10（サンマルイチマル）運動」といいます。宴会での30・10運動を知っていますか。

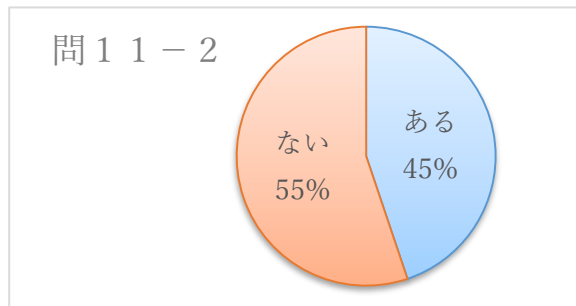
70%以上が30・10運動について全く知らないという結果であったが、内容まで知っている人も20%近く見られた。また、内容まで知っていても、実行したことがある人は半数未満であった。

	内容まで知っている	言葉は知っているが内容は知らない	まったく知らない
問11-1(人)	29	13	106



問11-2 「知っている」と回答した方にお伺いします。30・10運動を実際に宴会で実行したことがありますか。

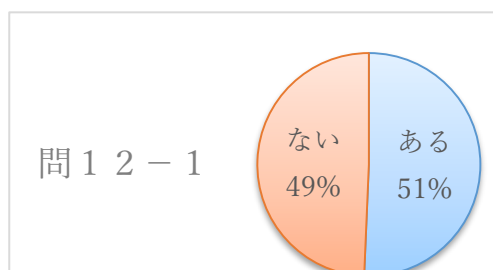
	ある	ない
問11-2 (人)	13	16



問12-1 飲食店で持ち帰り用パック等を使って持ち帰りをすることがありますか。

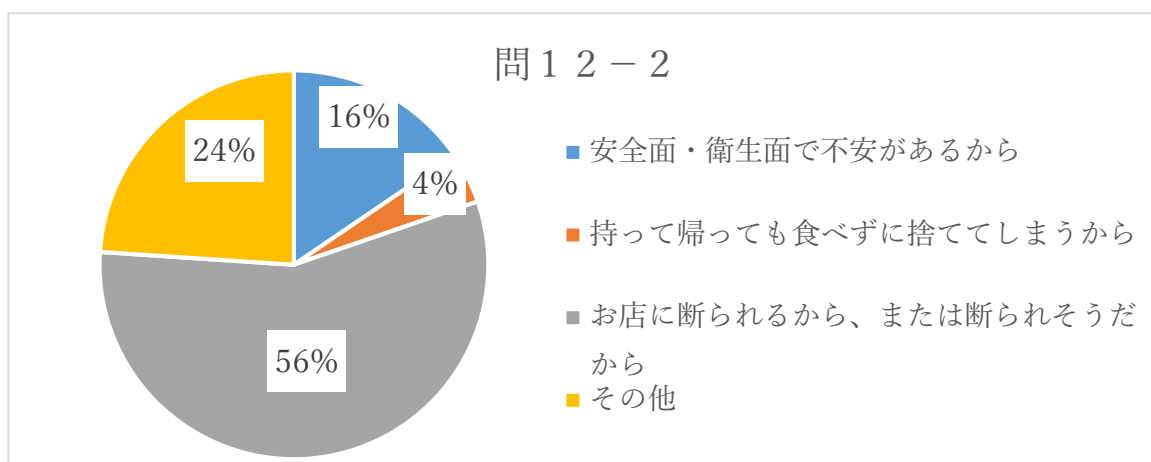
持ち帰りをすると、しない人がほぼ半々であった。持ち帰りをしない人について、その理由はお店側に断られる、または断られそう、という理由が半数以上であった。

	ある	ない
問12-1 (人)	75	73



問12-2 「ない」と回答した方にお伺いします。その一番の理由はなんですか。(回答は1つ)

	安全面・衛生面で不安があるから	持って帰っても食べずに捨てるから	お店に断られるから、または断られそうだから	その他
問12-2(人)	11	3	40	17



<その他の意見>

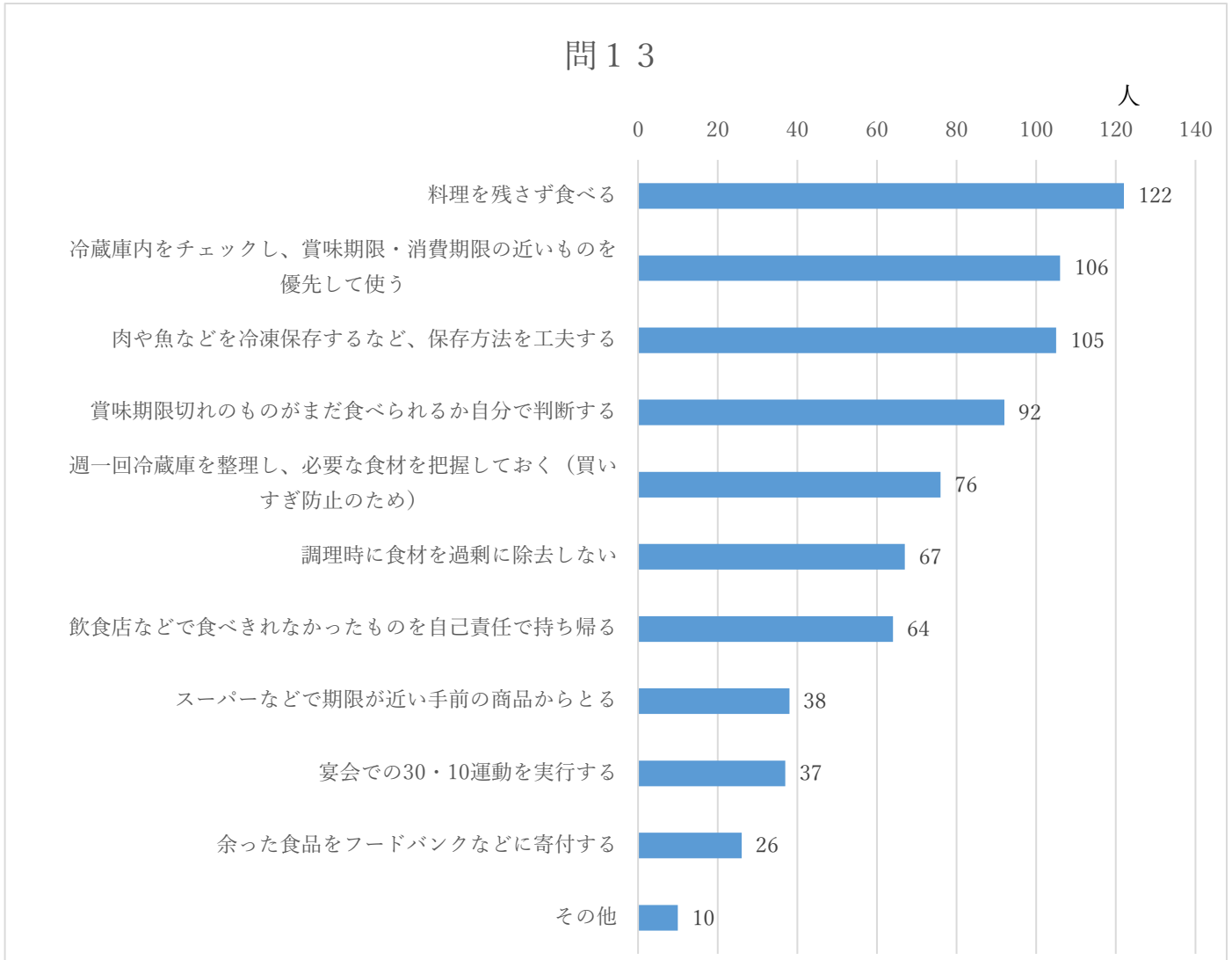
- ・「残さない」を信条としている。(60代男性)
- ・食べ残すことがあまりない。(20代、30代、60代、70代男性)
- ・ほとんど残すことはないが、万が一残す事があれば、使い捨ての持ち帰り容器で持ち帰る。(50代女性)
- ・必要以上にオーダーしない。(40代、50代女性)
- ・本当は持ち帰りたいたが、持ち帰るという文化が周りに浸透していない。店自体も宣伝しておらず、行政もメディアも大々的に取り上げていないため、したら卑しいと思われそう。(20代女性)
- ・「持ち帰り用パック」を普段持ち歩いていないし、お店に用意してあるのかもわからない。しかし、衛生面に注意して気軽に持ち帰る風潮が広がれば、積極的に利用したい。提供してもらった料理を無駄にすることなく、家でもお店の味が楽しめるので一石何鳥にもなると思う。(40代女性)
- ・消費税率が一律だった時までは利用できるお店では利用していたが、消費税が分かれてからは、持ち帰りは断られるか、嫌がられるようになった。食品ロスに関して法整備をしておきながら、外食とその他の食品での税率をあえて分け、「持ち帰りできない・しにくい」状態を作り出している。本気でこの問題に取り組んでいないのではないかと。(50代女性)
- ・外食はしないので(旅行以外、滅多に行かないが)残すこともない。また残すほどの量を頼んだこともない。(60代男性)

問13 次の中で、今日からすぐに実行できるものを選んでください。(複数可)

「料理を残さず食べる」が122人と最も多く、次いで「冷蔵庫内をチェックし、賞味期限・消費期限の近いものを優先的に使う」、「保存方法を工夫する」といった意見が多かった。

	料理を残さず食べる	冷蔵庫内をチェックし、賞味期限・消費期限の近いものを優先して使う	肉や魚などを冷凍保存するなど、保存方法を工夫する	賞味期限切れのものがまだ食べられるか自分で判断する	週一回冷蔵庫を整理し、必要な食材を把握しておく(買いすぎ防止のため)	調理時に食材を過剰に除去しない
問13 (人)	122	106	105	92	76	67
	飲食店などで食べきれなかったものを自己責任で持ち帰る	スーパーなどで期限が近い手前の商品からとる	宴会での30・10運動を実行する	余った食品をフードバンクなどに寄付する	その他	
	64	38	37	26	10	

問13



<その他の意見>

- 輸入依存の食糧について、以下1～4のことを学校や地域に伝えること。（70代以上、男性）
 - 1 生産国の気象状況や政治・社会状況によって、いつ供給不安定になるかわからないこと
 - 2 輸入食料は生産国で栽培や加工するために大量に水資源を消費している事（仮想水）
 - 3 外国からの食料輸送用燃料は莫大で地球環境にも大きな悪影響を与える事（フードマイレージ）
 - 4 世界中には未だ8億人の人たちが飢餓状態であること
- 必要以上に購入しない。（30代、40代、50代いずれも女性）
- 作った料理にアレンジを加え、違う料理に変化させて食べきる工夫をする。（30代女性）
- 期限切れに近い食品の安売りは積極的に買う。（70代以上男性）
- 恵方巻やクリスマスケーキなど、販売日限定商品の破棄が問題なので、消費者として不買の態度を示す。（50代男性）
- 作る量を減らす。（60代女性）
- 買い物に行く前に一週間分の献立を立て、無駄な買い物をしない。（40代女性）

問14 食品ロスについてご意見等があればご自由にお書きください。

- 居酒屋等、料理を残した場合追加料金を徴収する店舗があるようだが、この仕組みをすべての飲食店に適應するといひ。(20代女性)
- 飲食店にはフードロス発生量に應じた罰金設置や格安弁当の促販などの推進という策もあると思う。フードロスが多い各家庭に対しては、ロスに対して何かしら罰則や決まりを設けるなど、圧力がないと動かない。(20代女性)
- スーパー等で賞味・消費期限が近い商品を売る場合、期限ギリギリの物のみ割引するのではなく、少し猶予のある物も段階的に割引率を上げて売るようにすれば、それらを買う機会が増えると思う。(20代女性)
- 食品ロスについては、個人の問題よりも、コンビニのクリスマスケーキなど、需要のないものを大量に作る事業者側の問題という認識であった。事業者側の企業努力が不可欠だと思う。(40代男性)
- 一番の問題は、コンビニやスーパーの売れ残り廃棄であり、行政の課題だと考える。食品業界や流通業界ではより多く売り業績を上げることが目的のため、多少の廃棄・ロスについては目をつぶってしまう。(60代男性)
- 家庭から出るロスも多いと思うが、スーパーや飲食店から出るロスも多い。スーパーは賞味期限が近いものは大幅な値引きをしてでも売るようにして、売れ残りは、賞味期限切れだけを集めた品物の店舗を開設し、定額会員制とするなどの工夫を。(20代女性)
- 売る側のスーパーやコンビニエンスストアは、より工夫が必要。割引をしたり、ポイントをうまく利用してほしい。数値化するのもひとつの方法。(50代男性)
- スーパーで「すぐたべくん」などの啓発表示を目にするので、より広く市民に知らせてほしい。(50代女性)
- 飲食店では大盛無料のサービスがあり、頼んでしまいがちだが、量の見当がつかない。量の目安になる写真や重さを分かりやすく表示すれば、ロス対策になると思う。(30代女性)
- 食材の包装は簡易的であるほど家庭で使いやすい。取りにくいシール留め切れないパッケージは使うのを後回しにしてしまう。食品(特に生鮮食品)の量を少量から大容量までいろいろ選べると使い切りやすい。(40代女性)
- 外食産業では、宴会などで残った料理を持ち帰ることは、ウイルス感染などの懸念もあることから難しい。残飯を飼料やバイオ燃料に生まれ変わらせるなど、ゴミにしないで活用する方法があればよい。(40代女性)
- 静岡県内の某大手飲食店グループが、食材が倉庫で余って困っている卸売業者や生産者を助けるため、休業中のレストランを利用してそれらの販売を始めた。客はお得に買うことができ、業者は売り上げになり、大変良い取り組み。今後もフードロス問題は続くので、こういった取り組みを市が主体となって取り組むと良い。賞味期限が近い商品や、形が悪いだけで売り物にならない商品等を集め、お得に購入できる「わけありマルシェ」はいかがか。(30代女性)
- 日本の格差社会化の急激な進展で、今や途上国並みに日常の食事に滞る世帯が増えていることを、もっと国民に正確なデータで知らせる必要がある。そして、市民はこの状態を解消するための支援体制を強化する必要がある。(70代以上男性)
- 消費期限の長い食品で、家庭で消費しないものを気軽にフードバンクなどに寄付できると良い。(40代女性)

- ・スーパーで期限が近い物から取るのは、消費期間の余裕を考えるとなかなかできないが、やはり考えなければならない。(60代女性)
- ・飲食店のテイクアウト事業が広がっているので、宴会時や外食時、残った食材を持ち帰る文化が当たり前になるといい。店に持ち帰り用の容器があるのか、持ち帰りたいと発言して良いのか、ということは確認しにくいので、お店に「持ち帰りも出来ます」等が書かれていると良い。(30代女性)
- ・新型コロナウイルスの影響により買い物に行く機会が減ったため、買い物に行ったときは過剰購入してしまう傾向がある。必要な分を必要なだけ計画的に購入するよう心掛けたい。(50代女性)
- ・30.10運動は良い取り組みだと思う。これが無いと、食べる時間がなくなったり、「慌ただしく食べるところを見られるのが恥ずかしいので食べられない」、ということがない。(60代男性)
- ・静岡市独自で、市民一丸となって食品ロスを減らす取り組み方法があるといい。例えば、通年利用可能な「市民キャンペーンカード」を発行し、様々なキャンペーンと連動するカードとして市民に配布する。フードロスキャンペーンの場合は、消費期限が迫った商品を購入した人へポイントを付与し、貯まったポイントは「静岡市のごみ袋」と交換できる等、自分がフードロスに取り組んだことが街の美化等につながれば、市民全体が助け合いの気持ちで溢れ、取り組みやすい。(50代女性)
- ・環境に配慮する(レジ袋辞退等)と何らかのポイントが付与される仕組みを作れば、通年を通して市民の習慣となるのではないか。(50代女性)
- ・余った食品をフードバンクに寄付する場合のシステムがわからない。静岡市のホームページに掲載されていれば、できる限り協力したいと思う。(70代男性)

◇所感◇

食品ロスについては、近年メディア等で取り上げられる機会も増えているせいか、その言葉自体すら聞いたことがないという人は殆どみられず、認知度はかなり高いことが確認できました。しかしながら、スーパーなどで賞味期限や消費期限の近いものが多く売れ残ったり、宴会時に料理の量が多すぎて最後にどうしても残ってしまったり、店からの持ち帰りの習慣がまだ浸透していなかったりと、課題も多く認められました。このような比較的目立っているロス要因については、行政として重点的に指導や啓発を行う必要を感じております。

また、小さなお子様を抱える家庭や、体調面の問題などにより、やむを得ず食品ロスが出てしまっている事例も多く存在するのだと感じました。いきなり「食品ロス0」を目指すのではなく、それぞれの方が取り組める範囲で少しずつ今までの生活を変えてもらうだけで、全体の食品ロスは減らすことができるかもしれません。

今回の市政アンケートモニターの結果を参考に、関連事業をより一層推進してまいります。